

令和2年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 53

千葉県立松戸馬橋高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

本校において、高校生活に積極的に取り組む意志があり、人物が優れ、かつ次のア、イ又はウのいずれかに該当する生徒。

ア 学習成績が優れていること。又は秀でた教科があること。

イ 特別活動において実績を有し、入学後も引き続き取り組む意志があること。

ウ 部活動で優れた実績又は資質を有し、入学後も引き続き取り組む意志があること。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者4～6名・評価者3名の集団面接 検査時間：1グループ20分
(4) 自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 文章による自己表現 実施形態：検査当日指示された題について文章により表現する。 字数：600字程度 検査時間：50分 イ 実技による自己表現 実施形態：基本技能を中心とした実技により個人で表現する。(ただし、団体種目は、複数人数で実施) 次の部活動実技のうち1つを選択。 野球(男)・サッカー(男)・陸上(男女) ・柔道(男女)・バスケットボール(男女) ・バレーボール(男女)・吹奏楽(男女) 各種目1～20名に対し、評価者2名 検査時間：35分(更衣、整列等の時間を含めて50分)

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。 合計得点が100点未満の場合は、審議の対象とする。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 アの数値に、イ及びエについて加点(上限30点)したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3か年皆勤である場合は加点する。 3年間の欠席日数の合計が30日以上の場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。 ○が一つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、 部活動の記録及び 特記事項	学級活動、生徒会活動、部活動等の記載内容について評価する。 特に積極的に取り組んだと認められる記述については加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接〔90点満点〕

3名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a(優れている)・b(標準的である)・c(問題がある)の3段階で評価する。

aを10点、bを5点、cを1点とし、3名の評価者の評価(各30点満点)を合計し、得点化する。

評価cが1つでもある場合は審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志願理由・意欲・態度	志望の動機が明確であり、高校生活に意欲的に取り組もうとしている。 基本的な面接作法が身につけている。
イ 服装・身だしなみ	頭髪・服装などの身だしなみが整えられている。
ウ 質問に対する応答	質問を正しくとらえて、適切に回答することができる。

(4) 自己表現〔180点満点〕

次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを30点、bを15点、cを2点とし、2名の評価者の評価（各90点満点）を合計し、得点化する。

ア 文章による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 内容の理解と文章表現	与えられたテーマに対して内容が適切である。 誤字や脱字がない。文法が正しく用いられている。
(イ) 字数・全体構成	指定された字数に対して過不足がない。 全体としてのまとまりがある。
(ウ) 意欲・態度	前向きな姿勢で物事に取り組もうとする意欲が表現されている。

イ 実技による自己表現（部活動実技）

評価項目	評価基準
(ア) 検査内容の理解と対応	検査内容を的確に理解し、趣旨にそった対応ができている。
(イ) 能力・適性	当該種目に対する適性があり、基本的技能を身に付けている。
(ウ) 意欲・態度	当該種目に積極的・意欲的に取り組んでいる。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（面接・自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点		総得点
	評定（算式1）	加点	面接	自己表現	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	30点	90点	180点	$(935 + \alpha - m)$ 点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95

m ：中学校評定合計平均値

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

イ 入学許可候補者に内定した者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による内定者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。

令和2年度 海外帰国生徒の特別入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 53

千葉県立松戸馬橋高等学校 全日制の課程 普通科

1 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者1名・評価者3名の個人面接 検査時間：1名10分
(4) 自己表現	文章による自己表現 実施形態：検査当日指示された題について文章により表現する 字数：600字程度 検査時間：50分
(5) 海外在住状況 説明書	実施要項（様式7）により、海外在住期間及びその前後の教育歴等を説明したもの

2 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。合計得点が100点未満の場合は、審議の対象とする。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 アの数値に、イ及びエについて加点（上限30点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3か年皆勤である場合は加点する。 3年間の欠席日数の合計が30日以上の場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。 ○が一つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	学級活動、生徒会活動、部活動等の記載内容について評価する。特に積極的に取り組んだと認められる記述については加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接〔90点満点〕

3名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを10点、bを5点、cを1点とし、3名の評価者の評価（各30点満点）を合計し、得点化する。

評価cが1つでもある場合は審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志願理由・意欲・態度	志望の動機が明確であり、高校生活に意欲的に取り組もうとしている。 基本的な面接作法が身につけている。
イ 服装・身だしなみ	頭髪・服装などの身だしなみが整えられている。
ウ 質問に対する応答	質問を正しくとらえて、適切に回答することができる。

(4) 自己表現〔180点満点〕

2名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを30点、bを15点、cを2点とし、2名の評価者の評価（各90点満点）を合計し、得点化する。

文章による自己表現

評価項目	評価基準
ア 内容の理解と文章表現	与えられたテーマに対して内容が適切である。 誤字や脱字がない。文法が正しく用いられている。
イ 字数・全体構成	指定された字数に対して過不足がない。 全体としてのまとまりがある。
ウ 意欲・態度	前向きな姿勢で物事に取り組もうとする意欲が表現されている。

(5) 海外在住状況説明書

評価項目	評価基準
記載内容	志願資格があることを確認する。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

中学校の校長から送付された調査書、海外在住状況説明書等の書類の審査並びに学力検査の成績、面接、及び自己表現の結果を資料とし、本校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して入学者の選抜を行う。

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはいしない。

令和2年度 後期選抜の選抜・評価方法

学校番号 53

千葉県立松戸馬橋高等学校 全日制の課程 普通科

1 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者4～6名・評価者3名の集団面接 検査時間：1グループ20分

2 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。
個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3か年皆勤である場合は、総合的に判定する際の参考とする。 3年間の欠席日数の合計が30日以上の場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。 ○が一つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接

3名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

評価cが1つでもある場合は審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志願理由・意欲・態度	志望の動機が明確であり、高校生活に意欲的に取り組もうとしている。 基本的な面接作法が身につけている。
イ 服装・身だしなみ	頭髪・服装などの身だしなみが整えられている。
ウ 質問に対する応答	質問を正しくとらえて、適切に回答することができる。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

令和2年度千葉県公立高等学校入学者選抜実施要項に従い判定する。

(2) その他

- ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。
- イ 入学許可候補者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

4 その他

過年度卒業者については、検査終了後、別途個人面談を行う。